

平成 30 年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第 10 回検討会での質問に対する回答について

第 10 回検討会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

○質問－ 1

コンサルタント説明の中で、シギチドリ類 例年よりシギ・チドリ

- 1) 少ない その理由を説明してください
- 2) また 9 月は、シギ・チドリのシーズンオフと説明されたと思いますが、それは認識不足なのでは、ないですか？

◆回答－ 1

1) について、シギ・チドリ類の生息状況は、例年よりも多いことを確認して説明しております。飛翔状況は、例年よりも少ない状況ですが、これは調査日の状況によるものと考えられます。出現状況には減少が見られていないことが重要であることを本検討会で鳥類の専門家からも説明があったところです。

2) について、検討会にて 9 月をシーズンオフと説明しましたが、年に 4 回の調査を実施する中で、9 月はその他の調査時期と比較して個体数が少ないという意味です。夏鳥のシギ・チドリ類についても調査しておりますので、詳細なデータについては検討会の説明資料か環境モニタリング調査結果のデータ集をご確認下さい。

○質問－ 2

「ハマスナホリガニ」 80 年前に沖洲海岸で日本初発見され森博士によって論文になっており、吉野川河口の代表種ですが、何故みつかっていないのですか？それには、底生生物の調査範囲を縮小しすぎていることが理由ではないですか？

◆回答－ 2

底生生物・底質調査の潮間帯定量調査では、平均潮位、平均潮位から±50cm の箇所に対して定点を設けて調査をしています。このため、ハマスナホリガニを捕獲することを目的とした調査ではありません。調査方法及び調査範囲については、第 4 回検討会（平成 26 年 8 月 27 日開催）で決定した環境モニタリング調査計画に基づいて実施しておりますので、ご確認下さい。

■第 4 回検討会

<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h26/0827/>

第10回検討会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－1

検討会日時告知があまりにも間際すぎます。4日間とは短かすぎます もっと早めに公表してください

◆回答－1

※第7回検討会 意見・要望-8と同様←★メモ、公開版では削除

検討会の開催につきましては、概ね開催1週間前を目途に、NEXCO西日本ホームページで御案内しているところです。今回のお知らせ時期につきましては、内部手続きの遅れから開催直近でのお知らせとなってしまう、大変御迷惑をお掛けしました。

○意見・要望－2

議事録の公開に時間がかかりすぎると思います H30年4月6日の議事録は不完全（文字脱字等）すぎて、読めません。改善おねがいします

◆回答－2

議事録の公開は、各委員の確認を経て公開しております。なお、公開している議事録は問題無く読むことができますので、改めてご確認下さい。

○意見・要望－3

3) シギ・チドリと人間活動との関連性について

犬、ヒトのカクランを数学的に定量データが必要だと思えます H30年は、貝毒で、潮干がりの人は、皆無だったと思えます H30年の春データを至急確認し、考慮をお願いしたい

◆回答－3

シギ・チドリ類と人間活動の関連性については、河口干潟と右岸側が接続したことによる聖域性の低下の可能性が示されたところです。今後も引き続き、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に環境モニタリング調査を進めていきたいと考えております。

○意見・要望－4

潮間帯の底生生物の調査は、いつの間になくなってしまっているように思います

モモノハナガイは、潮間帯～潮下帯が生息場所

◆回答－4

底生生物・底質調査の潮間帯定量調査は、事前調査から現在に到るまで、変更無く継続的に実施しております。

○意見・要望－5

底生生物の工事の影響をうける調査範囲の設定がせますぎると思います。もっと中洲干潟の潮間帯にも広げて下さい（以前から、お願いしてきました。）

◆回答－ 5

底生生物・底質調査の調査方法及び調査範囲については、第4回検討会（平成26年8月27日開催）で決定した環境モニタリング調査計画に基づいて実施しておりますので、ご確認下さい。

■第4回検討会

<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h26/0827/>

○意見・要望－ 6

現在の吉野川河口のモニタリング調査において、ハビタットのモデル設定は、たいへん疑問です。（チヨノハナガイ、シノブハネエラスビオ）吉野川河口における、橋の影響を測る

◆回答－ 6

ハビタット区分の設定方法については第6回検討会（平成27年10月27日）で示しており、以降の検討会においても継続的に浚渫の影響評価を実施して提示して参りましたので、ご確認下さい。

■第6回検討会

<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h27/1027/>

○意見・要望－ 7

地形変動の説明で、しらさぎ大橋の工事中には、最河口は、陸とつながったことが、ひんぼんで、あって、鳥類生息環境（人の出入りなど）は、変わらないと云われていたと思います

↑

この説明、はなはだ疑問です。

しらさぎ大橋、工事中は、エリア1のシギ・チドリは、増加傾向にあったと思います。それは徳島県によると、エリア1の面積増加との関連性を云われていた。シギチドリ調査方法、調査結果を再検証し、刷り合わせをし、しらさぎ大橋モニタリング結果と合わせて、解析をお願いします

◆回答－ 7

第1回環境部会（平成25年9月13日）より、阿波しらさぎ大橋建設事業で実施されたモニタリング調査方法及び調査結果を参考にしながら事業を進めています。鳥類調査の調査方法については、第4回検討会（平成26年8月27日開催）で決定した環境モニタリング調査計画に基づいて実施しております。また、調査結果についても鳥類の専門家へ適宜報告し、適切に進めております。

なお、阿波しらさぎ大橋建設事業においても、河口干潟の拡大に合わせて河口干潟のエリア1におけるシギ・チドリ類の出現が増加することが示されており、第8回検討会（平成28年8月29日開催）でも同様の意見を受けて、本検討会（第10回）で河口干潟東部（エリア1）の面積の拡大とシギ・チドリ類の出現状況の変化を示させていただきましたので、資料をご確認下さい。

○意見・要望－ 8

和田恵次委員から指摘がありました シギ・チドリの調査の真ぴょう性に疑問を持ちました
詳細な調査方法・内容の明記をお願いしたいです。また教えてください。

◆回答－ 8

鳥類調査の調査方法については、第4回検討会（平成26年8月27日開催）で決定した環境モニタリング調査計画に基づいて実施しております。各検討会で調査方法のブラッシュアップを重ねており、本検討会の参考資料に現在実施している鳥類調査の調査方法を示していますので、ご確認下さい。

■第4回検討会

<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h26/0827/>

■補足

検討会で提示した鳥類の生息状況調査の出現個体数及びそのグラフに関しては、鳥類が休息を行う満潮頃に2回と採餌を行う干潮頃に3回行った調査の内、最大出現数を用いているため、出現個体数に対して採餌と休息の合計値が一致しない。

○意見・要望－ 9

高速道路橋の夜間の光量（LED等）で野鳥に与える影響を調査してください

◆回答－ 9

事業における鳥類への影響については、今後も引き続き、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に環境モニタリング調査を進めていきたいと考えております。

○意見・要望－ 10

河口干潟（最下流部で）振動調査を工事で行ってください。振動が生物に与える為、特に野鳥に・・・

◆回答－ 10

騒音振動調査は、大きな騒音・振動が生じる杭打ち工事の終了をもって終了しました。なお、本事業の騒音・振動によって鳥類の行動に変化が生じていないことを第7回検討会（平成28年8月3日）で報告しておりますので、ご確認下さい。

■第7回検討会

<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h28/0803b/>

○意見・要望－ 11

冬期の海ガモ（クロガモ、ビロードキンクロ等）激減、カンムリカイツブリ、エリグロカイツブリも激減しています 調査羽数を発表願います。コクガンは工事がはじまり飛来せず

◆回答－11

本事業で実施してきた環境モニタリング調査では、クロガモ、ビロードキンクロ、カンムリカイツブリ、エリグロカイツブリ、コクガンは確認されておられません。

事業とは別に個人等が確認された鳥類等の情報については、第4回環境部会（平成26年12月15日開催）で「生物観察データの活用」として示しておりますので、ご確認下さい。

■第4回環境部会

<https://corp.w-nexco.co.jp/newly/h26/1215/>
